

【普通作物】の【少雨・干ばつ】対策について

<6月>

農業経営支援課

【早期水稻】（幼穂形成期～出穂期）

（1）予想される被害状況

- ① 幼穂の発育に障害を受け減収する。
- ② 稲の活力が低下すると、いもち病が発生しやすくなる。

（2）事前対策

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に給水する。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
特に穂孕期から出穂期にかけては、走り水程度でも給水に努める。
- ③ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。
- ④ いもち病の発生に注意し遅れないように防除する。
- ⑤ 粒剤散布や穂肥施用の際は、湛水となるように給水に努める。

（3）事後対策

- ① いもち病が発生したら直ちに防除する。
- ② 海水の混入があった場合は、真水の給水に努め塩分濃度低下を図る。

【普通期水稻】（育苗・移植期～分けつ期）

（1）予想される被害状況

- ① 田植作業が遅れ、苗の徒長や老化、病害が発生する。
- ② 移植後の活着や分けつの遅れが生じる。

（2）事前対策

1) 育苗管理

- ① 育苗日数が25日を過ぎると肥料切れしてくるので、1箱当たり0.5g程度の窒素を追肥し、葉焼けしないようすぐに軽く散水する。
- ② 苗箱への灌水は苗が徒長しないよう少なめにする。
- ③ いもち病や苗立枯れ病が発生しやすくなるので防除を行う。
- ④ 寒冷紗で遮光したり、苗箱の間隔を広げるなどして風通しを良くする。
- ⑤ 苗が徒長したら、本葉第2葉の中央部程度で剪葉する。

2) 本田準備

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に代掻きや田植作業を進める。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
- ③ ほ場からの漏水が軽減するよう、代掻きや畦ぬりは丁寧に行う。
- ④ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。

3) 本田管理

- ① 移植が大幅に遅れ穂数不足が懸念される場合は、苗箱数を勘案し1株の植付け本数を多くしたり、栽植密度(株間を短く)をやや多くして移植する。
- ② 移植後は計画排水により、減水に応じて数日間隔での給水に努める。
- ③ 除草剤は浅水で散布すると、特にジャンボ剤やフロアブル剤では拡散不十分で薬害を起こしたするので、薬害の少ない初期除草剤を選定したり、薬剤の適用範囲内で、水深が十分確保されたときに散布する。
- ④ 穂肥施用の際は、湛水となるように給水に努める。

(3) 事後対策

- ① いもち病が発生したら直ちに防除する。
- ② 残草が多い場合は、中後期除草剤で除草する。
- ③ 苗の老化や本田水不足で移植が不可能と判断された場合は、再育苗や作期の晩化、作付品目の変更等の検討を早めに行う。
- ④ 土壌乾燥が続いた後に、急に湛水すると青立ちが発生する場合がありますので、間断かん水で管理し徐々に湛水に慣らす。

【大豆】(播種期)

(1) 予想される被害状況

- ① 土壌水分が不足すると発芽不良となる。

(2) 事前対策

- ① ほ場に入水や散水が可能な場合は、適度に土壌水分を高めてから耕耘し、播種作業を行う。
又は、播種後に畦間に入水を行う場合は昼間の高温時に入水すると種子の腐敗が生じやすいので、夕方以降に行う。通水後は速やかに排水する。
なお、通水は過剰に行うと過湿となり発芽障害を起こすので注意する。
- ② 土壌が乾燥している場合は、播種はやや深めにして覆土を鎮圧する。
- ③ 雑草が水分を収奪するので、除草剤や中耕等で除草に努める。
なお中耕は乾燥が促進することもあるので、時期や深さを考慮して行う。

(3) 事後対策

- ① 発芽不良で欠株が多かった場合は、追播きや再播種を行う。